

生活リハビリテーションセンターだより

研修会報告

令和6年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第3回研修会 「わかりやすい!てんかんのお話

～知っておきたい大切なこと～



小出内科神経科
小出泰道先生

令和6年11月17日(日)堺市総合福祉会館において、第3回研修会「わかりやすい!てんかんのお話 ～知っておきたい大切なこと～」をテーマに講演会を開催しました。

講師には、てんかん専門医である小出内科神経科の小出泰道先生をお迎えし、てんかんについてわかりやすくお話いただきました。

初めに、てんかんの歴史について触れた後、その定義と診断・治療について詳しくご説明をいただきました。また、動画や事例などの紹介もあり、会場の皆様はメモをとりながら熱心に講演に聞き入っておられました。

「てんかんは決して珍しい病気ではないこと」、「その原因や症状は人により様々であること」、「治療については主治医としっかりと相談しながら進めることが大切であること」などに加え、てんかんがもたらす脳やからだ、こころ、生活への影響についてもお話しくさしました。地域のてんかん専門クリニックとして数多くの患者様を診療しているご経験から、患者様やご家族が社会生活の中でどのようなことに困難を感じている

のかなど、ライフステージに沿った説明があり、とても身近でわかりやすい内容でした。また、利用できる社会保障制度や自動車運転についても触れられ、非常に内容の濃い1時間半でした。

質疑応答では、地域で支援されている事業所の方から発作時の具体的な対応などについてのご相談もあり、専門医に直接ご相談できる機会の少ない支援者の方々にとっても良い機会となったと感じました。これをひとつのきっかけに、てんかんについての理解が進み、当事者・ご家族が少しでも生活しやすい環境が整っていくことを期待します。



第4回研修会 「地域生活で活かせる片麻痺のある方の工夫

～生活の質をあげるために知っておきたいポイント～

第4回研修会「地域生活で活かせる片麻痺のある方の工夫 ～生活の質をあげるために知っておきたいポイント～」を令和7年2月19日(水)に開催しました。

講義の前半では「片麻痺の症状の特徴」についてお話し、後半では日頃の支援経験から見える「退院後の日常生活での困りごと」と、その困りごとに対する具体的な対処方法として日常生活での自助具の活用法などを、動画を交えながら当センターの花田理学療法士が

解説しました。会場では紹介した自助具の展示もおこないました。

参加者のアンケートでは、「身近にあるものを活用し日常の動作がやりやすくなることを知れて良かった」「生活



動作を行うことで二次障害予防にもつながることを学べた」といった感想をいただきました。

次年度も支援のヒントとなるような研修会を開催してまいります。

ワイシャツの袖 ゴム紐でとめる方法

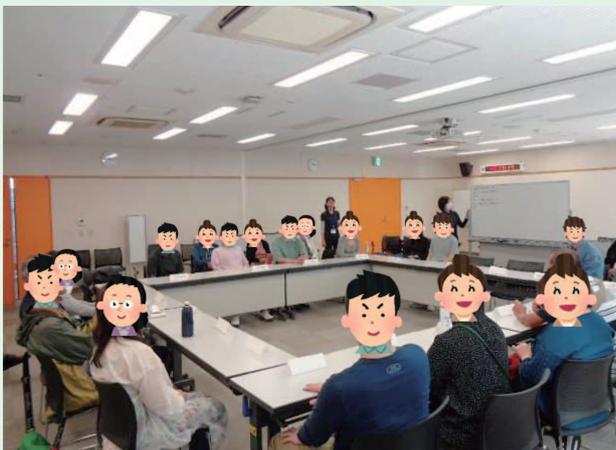


令和6年度 第2回学習懇談会 「復職をされた方の話を聞こう」

第2回学習懇談会を令和6年10月20日(日)に実施しました。当日は、現在訓練を利用中の方7名とご家族9名、そして訓練終了者9名の方が参加されました。今回は、訓練終了後に復職や新規就労をして現在も働き続けている訓練終了者の方から、就労に向けて不安だったことや訓練にどのように取り組んだかなどのお話をいただきました。「利用当初は『すぐに復職できる』という気持ちが強かったけれど、訓練をしていく中で自身の障害に気づきショックを受けた」「同じ目標を持つ仲間ができたことでやる気が出た」「訓練に取り組み復職をめざす中で、会社の総務や産業医と相談し自分のできる業務を考えて取り組むようにした」などといった当時の思いを聞かせていただきました。

利用中の方からは、「復職に対する不安はあったか?」「仕事に就いて良かったことは?」などの質問があり、「復職時期が早いと気づき、休職期間を延長した。焦らずに取り組むことが大切だと思う」「苦手になったことの整理ができて自分の障害について相手に説明できるようになった」など、ご自身の経験をもとに丁寧にお答えいただきました。

現在利用中の方は、どのように準備を進めていけば良いのか、復職や新規就労後はどのような働き方になるのかなど不安に思われている方も少なくありません。同じようにリハビリをしたのちに、実際に復職や新規就労をされている方から直接話を聞くことで、今後、ご自身の取り組むべきことを具体的にイメージするきっかけになったと感じました。



新春交流会 令和7年1月17日(金) 毎年恒例の新春交流会を行いました。

当センターでは開設当初以来、新春交流会での餅つきが恒例行事でしたが新型コロナウイルス感染症の拡大により、ここ数年間の新春交流会はレクリエーションと交流会のみとなっていました。今年は5年ぶりに餅つきを行い、当日は寒いながらも天候に恵まれ、にぎやかに餅つきを楽しむことができました。



午後、ご家族は家族懇談会、当事者様は体育室でポッチャ大会を行いました。

ポッチャ大会では、応援と笑い声が飛び交う中競技は進行し、訓練の時とは違った表情をたくさん見ることができました。一方、家族懇談会では普段なかなか話せない「家族ならではの悩み」や「家族だからこそ共感できること」など、多くの話題で盛り上がり、非常に有意義な時間となりました。

そして最後は、訓練を利用し就労された方に体験談

をお話しいただきました。訓練開始当初は「こんな所には来たくない!」と思っていたこと、訓練の中での辛かったことや他の利用者の行動を見て気づかされたことがあった、というお話もありました。また、担当職員と意見を交わしながら信頼関係を徐々に築いていったことや、今後の展望などを語ってくださり、先輩の体験談に皆様は真剣に聞き入っておられました。訓練が始まったばかりの方、もうすぐ卒業の方、就労に向けて頑張っておられる方、それぞれの段階で悩み事はあるかと思いますが、少しでもご自身の今後を考えていくきっかけになったのではないのでしょうか。

現利用者の皆様、訓練を終了された皆様、ご家族の皆様、総勢約40名の方に参加していただき、活気あふれる楽しい1日となりました。今後も、このような交流の場を設けていきたいと思っております。



大阪高次脳機能障がいリハビリテーション講習会に 卒業生の浜西様とご家族が登壇



「第5回大阪高次脳機能障がいリハビリテーション講習会」が令和6年11月23日(土)に健康福祉プラザ大研修室で開催され、多くの支援者や当事者・ご家族が来場されました。前半は国立障害者リハビリテーションセンター顧問の深津玲子先生が「高次脳機能障がいの基礎知識と最近の動向」と題した講演をされました。そして、後半の「当事者／家族／支援者の体験談」では当センターを利用した浜西様とご家族に登壇していただきました。当センターのスタッフと対談する形で、22歳に交通事故で受傷してから現在に至るまでの経過や困りごと、取り組んできたことや今後の目標などをお話しいただきました。

「生活リハビリテーションセンターに通所し始めたときはあまり行きたくなかったけれど、他の利用者の方からの励ましに助けられた。」と話されました。また、当センターの訓練を経て就職した際について、「障害を会社に説明した上でルーティン業務に配置してもらい、自分でもメモを活用しながら少しずつできる業務を増やし

たことが、今となっては良かったと思う。」と振り返りを話していただきました。今は退職して、新たな目標に向けて学校に通い、そこでも友人に助けをもらいながら学業とアルバイトに励んでいるそうです。

最後に参加者へのメッセージをお願いしたところ、「できないこともあるけれど、継続したらできると思っている。『継続は力なり』という言葉を中心にこれからはやっていきたい」と力強く語っていたことが印象的でした。

ご家族の代表としてご登壇いただいた祖母の美根子様からは、「受傷時は命がどうなるかと大変心配しました。回復するにつれて、本人がしたいことをできるように良い距離感で支えられたことが良かったのでは。」と受傷時からこれまでのお気持ちをお話しいただきました。

参加者アンケートでは「当事者の方の体験談はとても貴重で、様々なお気持ちを抱えてこれまで過ごしてこられたと思うのでお話を聞いて良かった。」といった感想がたくさんありました。依頼を快諾していただいた浜西様とご家族の皆様、ありがとうございました。

月替わりプログラムのご紹介

ゴルフ体験会

当センターでは、脳の病気やけがによる後遺症のため、好きなゴルフから遠ざかっている方にスポーツ活動の機会を持っていただきたいという思いから、ゴルフ体験会を開催しています。体験会当日は、皆様と一緒に近隣のゴルフ場に出向きショットの練習をしました。

同行したスタッフはゴルフの素人ですが、心強いサポーターとして訓練終了の方がレクチャーに来てくださいました。最初は不安な様子だった皆様も、丁寧な指導によりショットのコツをつかむことができました。また、ご自身のゴルフ道具を持参された方もおり、久しぶりの練習にも関わらず



イスショットを連発していました。

参加された皆様からは、「数年ぶりでもボールを飛ばすことができた!」「ゴルフはもう諦めていたが、またできて嬉しかった。」「リフレッシュできて楽しかった!」などの感想をいただきました。

この体験会が今後の皆様のスポーツ活動の良いきっかけ作りになれば幸いです。



11月水曜特別プログラム

水曜日は月替わりで様々なプログラムを実施しています。11月は『左片麻痺の方の代償手段プログラム』を行いました。左片麻痺は右脳の脳卒中や頭部外傷によっておこりますが、身体障害の他にも注意障害や左半側空間無視といった高次脳機能障害が、生活の中での困りごとにつながる場合があります。このプログラムでは障害の特徴を知り、代償手段を使うことでミスを減らし、できることを増やすことを目標としました。

参加者同士のディスカッションでは、「物をなくすようになった」「バスの行き先を確認せずに乗り間違える」「焦ると不注意になる」といった困りごとが挙がりました。様々な代償手段を紹介した後、生活の中でどのように実践するかを考えていきました。参加者はそれぞれに「財布・スマホ・鍵の置き

場所を決めておく」「時間に余裕を持って外出のための準備をする」「バスに乗る前に、立ち止まってバスの行き先を確認する」といった具体的な対策を立てられました。

すでに対策を実践している方もおり、参加者同士でアドバイスしている姿が印象的でした。「同じ立場からの視点でアドバイスをもらえて良かった」という声もあり、当事者の方の経験に基づいた意見に改めて説得力を感じました。定期的にこのプログラムを開催できればと思います。



堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00~17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

